

関西学院大学 研究成果報告

2024年 4 月 8 日

関西学院大学 学長殿

所属：教育学部

職名：教授

氏名：峯岸由治

以下のとおり、報告いたします。

研究制度	特別研究期間
研究課題	政治教育と歴史教育、文化教育による主権者教育構築のための教育内容、 並びに教育方法に関する調査
研究実施場所	研究室・調査先
研究期間	2023年 4 月 1 日 ～ 2024年 3 月 31 日（12 ヶ月）

◆ 研究成果概要 （2,500字程度）

上記研究課題に即して実施したことを具体的に記述してください。

特別研究期間では、上記課題を解決するために、以下の研究活動を行った。

1. 主権者教育構築のための政治教育内容、並びに教育方法に関する調査としては、以下のことを行った。

(1)政治教育、平和教育内容の検討をテーマに、江戸川区平和祈念展示室、明治大学平和教育登戸研究所資料館を調査した。本調査対象は、市民、高校生の運動、研究により史料価値が評価された「開発的アーカイブ」である。江戸川区平和祈念展示室は、東京大空襲の被災者が運動し、文書庫の保存、平和記念展示室の開室等が行われてきた。明治大学平和教育登戸研究所資料館は、市民、高校生の運動により登戸研究所の詳細が明らかになり、明治大学の協力のもと資料館が建設されている。これらの戦争遺跡は、市民の活動や運動の成果として、その価値が評価されるようになったのである。戦争、平和に関する教育内容は、日本国憲法における平和主義の理解と関連して、主権者教育における歴史教育、政治教育の内容を構成するものと考えられる。

(2)義務教育学校、高等学校に置ける、生活科、総合的学習の時間、探究の時間の動向、内容を調べるため日本生活科・総合的学習教育学会全国研究大会に参加した。日本生活科・総合的学習教育学会全国研究大会では、生活科の授業を参観するとともに、総合的学習の時間の授業も参観した。研究発表では、「総合的な探究の時間での地域との協働に向けての取り組み」「生活科教育の展開を支えた大学教員のオーラルヒストリー」等の発表を

聞いた。

(3) 神戸大学人間科学図書館を調査した。同図書館では、明治図書の発行している『社会科教育』誌を通覧した。同誌では、1980年1月号において、「いま社会科に問われている民主主義とは何か―社会科で民主主義をとらえさせるとはどういうことか―」という紙上シンポジウムが行われている。社会科における民主主義教育内容、並びに内容構成について、示唆を得ることができた。

(4) 「22年の指導要領よりも一層積極的に、社会科が民主主義を学ばせる教科であるという使命観をはっきり打ち出している」26年版学習指導要領のもとでの政治教育はどのように行われていたのかという問いを解決するため、当時の教科書を調査した。中学校社会科教科書は、すでに先行研究で検討されているので、本調査では小学校教科書を調査した。昭和26年から、次の指導要領が発行される昭和33年まで使用された小学校社会科教科書は、13社から発行されている。その中から、東京書籍、教育図書、中教出版の3社の教科書の当該部分を収集した。これらの教科書に絞ったのは、次の理由からである。東京書籍を選択したのは、学習指導要領に見られる社会機能を軸として構成される教科書だからである。教育図書を選択したのは、日本生活教育連盟「日本の基本問題」に従って構成される教科書だからである。中教出版を選択したのは、後年『憂うべき教科書の問題』の中で、小学校教科書の中でただ一社取り上げられた教科書だからである。

2. 主権者教育構築のための歴史教育内容、並びに教育方法に関する調査としては、以下のことを行った。

(1) 下記、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の青森県側遺跡調査と合わせて、亀ヶ岡遺跡、田舎館村埋蔵文化財センターを調査した。亀ヶ岡遺跡は、1622年、津軽藩の築城の際に発見された遺跡である。遮光土偶をはじめ、多数の土器、石器、木製品が出土している。縄文時代晩期には、亀ヶ岡様式の土器が北海道から近畿にかけて広く分布し、亀ヶ岡文化と呼ばれている。田舎館村埋蔵文化財センターは、弥生時代の北限の水田遺跡（垂柳遺跡）が展示されている。亀ヶ岡遺跡では、縄文クイズラリー、発掘調査現地説明会、ベンケイ貝輪づくり体験、土器の拓本とり体験といった体験学習が行われ、青森県として、「高校生縄文案内人養成事業」も行われている。田舎館村埋蔵文化財センターでは、弥生田を歩く。弥生田を小学生が耕作や稲刈りをする、地域の人々と連携した田んぼアートを作るといった体験学習が行われている。学習者の主体的な学びに応えた学習方法として注目される。

(2) 6月19日、歴史教育方法を検討するため、小田原城総構を教材とした歴史体験学習を迫体験した。小田原城総構を教材とした歴史体験学習では、総構を実際に歩いて、構築された土塁、堀切等を実感した。観光協会にはガイド部門もあり、小中学校の社会科見学等にも対応しているとのことであった。これも、学習者の主体的な学びに応えた学習方法として注目される。

3. 主権者教育構築のための文化教育内容、並びに教育方法に関する調査としては、以下のことを行った。

(1) 世界遺産に登録された「北海道・北東北の縄文遺跡群」の青森県側遺跡を調査した。世界遺産は、人類が共有すべき「顕著な普遍的価値」を持つ物件のことで、文化財、景観、自然などが該当する。北海道・北東北の縄文遺跡群は、縄文時代の人々の生活と精神文化を今に伝える貴重な文化遺産である。こうしたグローバルな観点から文化教育内容を選択することで、偏狭な愛国心育成から離れて、世界的な視野を持った主権者の育成が可能になるのではないかと考えた。

(2) 博多祇園山笠を調査した。博多祇園山笠は、800年近い歴史を持つ、博多地域の伝統行事である。2016年には、ユネスコ文化遺産にも登録されている。また、地区内にある福岡市立博多小学校では、地域伝統行事をテーマとした文化教育を進めている。そこで、以下の課題を解決するために、現地調査を行った。①次世代への継承への取り組み②①に関連して地域内義務教育学校の祭りへの関り③博多山笠継承の取り組みである。①③については、中洲流に参加する佐藤陽氏に、山笠実施に伴う技術的側面、並びに技術の継承についてお話を伺うことができた。重さ1トンの山笠を担ぎ、5キロを30分前後で走る山笠には、担ぎ方、交

代のしかた、後ろ、側面からのサポートのしかた等、いろいろな技術が使用されていることが分かった。また、技術の継承を目的に練習を行う等、目に見えない努力がなされていることも分かった。さらに、同席した家族の方からは、山笠の歴史、市民の感情、加勢町と呼ばれる反社会的集団の参加に関する問題等のお話を聞くことができた。②については、祭り期間中、博多小学校は半日で終了するということから、管理職の方への取材はかなわなかった。しかし、追い山ならしの会場で、児童を引率してきた通級学級担当教諭からお話を聞くことができた。

(3) ノルウェーのオスロとオーレスン进行调查した。8月24日、オスロでは、7.22センターを訪問した。7.22センターは、2011年7月22日に発生した連続テロ事件を記録し、後世に伝えると共に、異なる文化間対話を進める国の施設である。2011年7月22日に発生した連続テロ事件は、極右の男がノルウェーの首都オスロにある政府中枢部を爆破し8名を殺害、続いてウトヤ島で労働党の青年69名を銃で殺害した事件である。センターでは、まず、調査員の方に、施設の概要、記録、保存、教育活動の現状等をお聞きした。その後、館内を見学した。見学後、再度、事件に関連したワークショップの実施内容、学校教育、並びに社会教育関係者との連携等について、お話をお聞きした。また、翌日には、前日に教えていただいた事件関連地（爆破現場、ピカソの壁画保存場所）、国立美術館（7.22事件を題材とした作品が展示されている）を訪問した。オーレスン（8月26日）では、Jugendstil Senteret（アールヌーボーセンター）を訪問した。Jugendstil Senteretでは、1904年1月23日の火災、その後の街の復興について調査した。続いて、Robert Vingsnes氏の案内で、市内のJugendstil建築群を調査した。

上記調査から、研究課題の解決にあたって、以下指摘できる。

1. 政治教育、並びに歴史教育内容に関しては、民主主義や基本的人権に関する歴史教育の重要性を再認識した。我が国における政治教育内容は、国民主権、基本的人権の尊重、平和主義という日本国憲法の三つの原理に則って行われる必要があると言える。また、学習者のアイデンティティ形成に関して、アイデンティティの内容ではなく、その形成過程を重視することによって偏狭な愛国心育成から離れて、世界的な視野を持った主権者の育成が可能になると考えられる。
2. 主体的な歴史認識を形成する歴史学習の方法として、発達段階に対応した歴史体験学習の重要性が示唆されている。今後、これまで蓄積されている歴史体験学習の整理、新たな歴史体験学習の開発を進める必要がある。
3. 上記のアイデンティティ形成に関連して、7.22センターの取り組みから、民主的文化教育内容は、多様な文化的背景を持つ人々が分断される社会ではなく、共に暮らす包摂的社会の構築を可能とし、社会的排除に対抗する語りを創り出す政治教育とも関連した、文化教育内容の重要性を再認識した。
4. 異文化コミュニケーションによる第3の文化の誕生、コミュニティにおける文化の独自性という視点から、文化教育内容としてアールヌーボー様式に注目した。アールヌーボー様式は、各地域の文化的伝統をベースに、異文化との交流も反映しながら、それぞれの地域で独自の発展を遂げていることを確認できた。今後、今回の調査を基にして教材の作成を図りたいと考える。

以 上

提出期限：研究期間終了後2ヶ月以内

※個人特別研究費：研究費支給年度終了後2ヶ月以内 博士研究員：期間終了まで

提出先：研究推進社会連携機構（NUC）

※特別研究期間、自由研究期間の報告は所属長、博士研究員は研究科委員長を経て提出してください。

◆研究成果概要は、大学ホームページにて公開します。研究遂行上大学ホームページでの公開に支障がある場合は研究推進社会連携機構までご連絡ください。